

## 令和3年度 佐賀県小中学校校長会活動方針

人工知能(AI)等の高度化した先端技術があらゆる産業や社会生活に取り入れられたSociety 5.0の実現に向け、社会の在り方そのものが劇的に変化しつつある。また、少子高齢化や人口減少への転換、さらには新型コロナウイルス感染症に伴う新しい生活様式による対応が今後も予想されるなど、これからの社会の姿が一層予測困難なものとなっている。このような中、我が国の学校教育には、一人一人の児童生徒が自立した人間として自己のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手として主体的にたくましく生き抜いていけるよう、その資質・能力を育成することが求められている。

このような現状を受け、これからの学校は、校長の明確なビジョンと力強いリーダーシップのもと、これまでの積み重ねられてきた教育実践を生かしながら、児童生徒や地域の現状・課題を把握しつつ、社会に開かれた教育課程の実現に向けた取組や、教育活動の質を向上させるカリキュラム・マネジメントの確立など、SDGsに代表される新しい社会に対応した教育の実現を図るための、令和の日本型学校教育の構築を目指さなければならない。

そのためには、たくましく生き抜く力の根幹である確かな学力の保障、他者を尊重し、協働する豊かな心、たくましく健やかな心と体づくりに向けて、学校、家庭、地域はもとより、関係機関、学校間・校種間の連携・協働を一層強化し、教育活動の更なる充実を図っていくことが重要となる。一方、学校における働き方を意識しながら、いじめや不登校等の生徒指導上の課題、特別支援教育の充実、GIGAスクール構想への対応等、多様な課題への対応も求められている。このような現状を踏まえ、校長は自らの使命を自覚し、組織のさらなる機能化を図り、魅力と活力ある学校経営を展開しなければならない。

特に、本県は、教員の大量退職・大量採用期にあり、教育水準の維持・向上を期する大変重要な時期となる。そのため、立場や経験に応じたミドルリーダーや若手教職員の育成、また、教職員人事評価制度及び学校評価制度の効果的な活用による教職員の職務遂行能力及び学校力の向上や学校における働き方改革を念頭においた学校経営の活性化を図っていかなければならない。

佐賀県小中学校校長会は、以上のことを深く認識し、佐賀県教育振興基本計画のもと明確なビジョンを示し、教育行政の一翼としての役割を積極的に担い、自らの使命と責任を自覚し、立つ位置を確かに、互いの尊重と協働のもと、しなやかさをもち、存在感のある組織として着実に歩みを進めていく。そのために、校長会組織や取組の不断の検証と改善を図りながら、目前にある教育課題の解決と、大きな夢と高い志をもった、心豊かでたくましく生き抜く力を身につけた児童生徒の育成に組織の力を結集して取り組んでいく。また、県民の期待と信頼に応えるために徹底した教職員の服務規律の保持、積極的な学校情報の提供と共有による家庭や地域との連携強化を図っていく。

なお、東日本大震災をはじめ、自然災害等の被災地における教育活動正常化への支援は、被災地の各校長会から情報を得ながら、今後も継続的に進めていく。

以上の観点から、次に掲げる項目を活動の重点とする。

- 1 教育施策の円滑かつ有効な実施に向けた取組
- 2 教育課題解決のための組織的な調査研究と主体的な取組
- 3 教職員の資質及び指導力の向上を促す取組
- 4 行政・高等学校長協会・PTA（育友会）との連携強化の取組
- 5 校長会組織の改編と機能の強化充実への取組